

ベナンで野球の指導

伏見有史さんが表敬訪問

国際協力機構(JICA)の海外協力隊として、西アフリカのベナンで野球の指導を行うことになった伏見有史さんが11月21日(木)に町長のもとに訪れました。

期間は2年間の予定で、現地で、平日は主に子どもたち、土日は大人も含む幅広い年代に野球を教えたり、イベントや大会なども企画したりするそうです。

伏見さんは「野球を通して育ててもらったところがあるので、技術はもちろん、人を育てるという意味でも教えて、ベナンで活躍できる人材の育成に少しでもお手伝いできれば」と話していました。



町発展への功績をたたえる

善行・功労者表彰式



公共の福祉の増進に貢献した人や町民の模範となるべき人を表彰する町善行・功労者表彰式が11月26日(火)に総合文化センター「パルナス」で行われ、1団体と個人14人を表彰しました。

町長は「皆さんの尽力に感謝します。今後もより一層、町の発展のために活躍してほしい」とあいさつしました。受賞者は次のとおりです。

- 【個人善行表彰】 ・長谷川正成さん ・山内芳幸さん
- 【団体善行表彰】 ・医療法人和治会 中井整形外科医院
- 【個人功労表彰】 ・江良浩二さん ・三浦泰昭さん ・工藤博暎さん ・三上春江さん
- ・古川のり子さん ・鈴木節子さん ・木村百合子さん ・井沼洋さん
- ・傳法谷潤子さん ・淀野美砂子さん ・古川由美子さん ・阿部二郎さん

地域農業の振興に大きく貢献

農業委員会が青森県農業会議会長賞

町農業委員会が11月26日(火)に町長のもとを訪れ、令和6年度県農業会議主催の青森県農業委員会大会にて優良農業委員会として、当町農業委員会が「県農業会議会長賞」を受賞したことを報告しました。

松坂会長は、「農家の代表機関として当町の基幹産業である農業、農村の振興のため、引き続き関係機関と連携し、一層努力して参ります」と述べていました。



中泊の名を全国に

内閣総理大臣賞を受賞



町 農産物加工販売施設出荷者協議会が令和6年度内閣総理大臣賞むらづくり部門を受賞し、11月28日(木)に町長のもとを訪れ、めでたく受賞したことを報告しました。

出荷者協議会会長の田中恵津子さんと副会長の佐藤イネ子さんは「内閣総理大臣賞をいただいたことで青森県中泊町のことを全国に知ってもらえるきっかけになればうれしい」と話しました。

長年町民の体力増進や健康づくりに貢献

坂田峰之さんに感謝状

30 年間という長きにわたりスポーツ推進委員として町民の体力増進や健康維持などに取り組んだことが評価され、坂田峰之さんへ全国スポーツ推進委員連合会から感謝状が贈られました。11月28日(木)には町長へ報告しました。

坂田さんは「30年間という長い期間がんばってきてよかった」と話しました。



元気に長生き

永坂茂吉さんが100歳顕彰

永 坂茂吉さんが、11月26日に100歳の誕生日を迎えたことから、11月29日(金)に入所先の特別養護老人ホームすわんの里で町から顕彰状が贈られました。

永坂さんは、若いときは漁師として働いており、今でも漁師として働いていた時のことをよく話すそうです。

顕彰状を受け取った永坂さんは、家族と施設の皆さんから祝福され満面の笑顔を浮かべていました。



第12回 少年の主張大会

少年の主張大会が11月28日(木)に総合文化センター「パルナス」で開催され、町内の6小中学校の代表生徒計8人が発表をしました。
ここではその発表の一部を紹介します。

スポーツで中泊町を活性化

中里小学校6年 中村 龍 真さん



中泊町は、自然、食、文化が充実している魅力的な町であるが、スポーツ分野に今ひとつ物足りなさを感じている。ビーチサッカーフェスタのような大きなスポーツの大会も開催されていることから、スポーツを通して中泊町を盛り上げたい。競技人口が増え、運動公園の設備がよくなり、障害あるなしに関わらず、みんながスポーツに親しめる環境になれば、「スポーツの町、中泊」が復活するのではないかな。

キャッチフレーズは「青森といえば、スポーツの町 中泊町」

チャレンジすることで成長できる

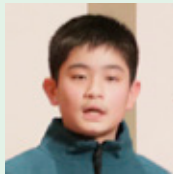
武田小学校6年 小野 裕 俐さん



私の学年は2人だけで、どちらかが全校を引っ張っていく機会が多い計画委員会に入らなければいけなかった。たくさんの人の前に立つのは苦手だったが、苦手なことにチャレンジしようと思い、計画委員会に入ることに決めた。委員会で仕事をしていくうちに、気が付くと人前で話すことが大の苦手だったのに、少し克服できているように感じた。苦手な場面に直面することがあると思うが、必ず気持ちを分かってくれる人、サポートしてくれる人がいて、乗り越えられるはず。「チャレンジは人を成長させる」この思いでこれからもがんばりたい。

未来のぼくたちへ

薄市小学校6年 小山内 悠真さん



僕は中泊町が大好きだ。中泊の人は、町の魅力が自慢であり、これからの町の発展に大きな期待を持っている。ぼくも町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、さらに良い町になってほしい。そのために、自分の住む中泊町をもっと知り、魅力を生かした新しい中泊へブラッシュアップさせていきたい。その時代に生きる人たちが考え、つくってきた中泊町のバトンを受け取り、自分たちが考える町の良さや魅力を足し算して、魅力あるまちにしていきたい。僕たちが大人になった時の中泊町は、魅力いっぱいあふれる中泊町であることを思い描いている。

今、ぼくにできること

小泊小学校6年 荒 閑 悟さん



ぼくは高学年になると、気持ちに余裕がなくなり、暴言を吐いてしまう回数も多くなった。卒業式の呼びかけでは、声も小さく、早口で練習のたびにやり直しがかり、友達にも変な目で見られている気がし、いら立ってしまった。しかし、「黙っていても気持ちは分からないよ。言いたいことは言って」と友達や先生が声を掛けてくれ、僕も勇気を出して「お世話になった先輩に感謝の気持ちを伝えたい」ことを伝えた。伝えたことで、その後の生活にも良い影響を与えた。楽しいことばかりではなく、つらいことや悲しいこともあると思うが、周りの人に相談しながら楽しい学校生活を送ることができるように、一緒にがんばってみませんか。

持続可能な中泊町へ

中里中学校1年 伏見 優 汰さん



全国的に人口減少や少子化が大きな問題になっている中、中泊町は「消滅可能性地域」に指定された。このままでは、近い将来、中泊町は消滅する危険がある。「働く場所を増やすこと」「所得を増やすこと」「子育て世帯に優しいまちづくりをすること」の3つのポイントを達成できれば、人口増や少子化の解決につながり、持続可能な中泊町になるのではないかな。その他にも「津軽鉄道」「金多豆蔵」「宮越家」など県外に伝えていきたい財産もある。中泊町で行っている試みを継続していけば、持続可能な中泊町になると考えている。

きれいな海を守るために

小泊中学校1年 長谷川 伊織さん



「わあ、きれい」幼い私は、初めて見た海の美しさに、自然と笑顔になった。小泊の海は、澄み切っていて、浅いところでも小さい魚が泳いでいる姿が見れる。この海で有名な魚はメバル。煮付けにしても刺身でも美味しい魚である。このメバルが小泊の海で生きていくためにも、きれいな小泊の海を保つことが必要。9月にはこどもり学園と地域の方で学校周辺のゴミ拾いをするが、海だけでなく、町にもごみが落ちている。自分たちの住む自然や町を守るために、地元に住む私たちが行動していかなければならない。海に遊びに行ったときは、自分のゴミだけではなく、落ちているゴミも拾うように心がけて生きたい。いつまでも、きれいな海を残していくために。

声

中里中学校2年 米 塚 麗 桜さん



「え、こいつの声、男じゃん。」と小学1年生の時に言われた。今考えれば些細なことだが、その時の私は傷つき、本当の声を出すのが怖くなっていた。今でも忘れることができない。普通の人と違うということがなぜ差別やいじめにつながるのか。この世界にはたくさんの差別があると思う。1つでも防ぐために、私は自分の嫌だった「声」が武器になるかもしれない「声優」になり、差別をなくしたい。現在活躍している声優の中には性別にとらわれず演じている人もいる。「声」だけで勝負できる「声優」は性差別を打破する一手になりうるかもしれない。

この先の未来「声優」としてわたしの「声」で差別されている人、いじめを受けている人を支えたい。

優しい観光地「小泊」を目指して

小泊中学校2年 角 田 恵 一さん



僕の趣味はサイクリングだ。小泊と市浦をつなぐ海岸沿いの道路から美しい海をみながら走ることができる。しかし、大型車両が通ると対向車は外側によらなくてはならないくらい狭い道路で、歩道や自転車道がないため、サイクリストや観光に訪れた人などが気持ちよく走ることもできない。道路にはくぼみやひびが多くあって走りにくく、観光にやさしい町とは言えない。観光客にやさしい環境は地元で生活する人にも優しい環境になる。誰にでも優しい観光地「小泊」になってほしい。この美しい小泊を多くの人に知ってほしい。

「中泊町」誕生に大きく尽力

野上祐一さんが旭日双光章を受賞

野上祐一さんは11月22日(金)にホテル青森で旭日双光章を授与され、12月4日(水)に中泊町役場で町長に報告しました。

旭日双光章は、中里町議会議員として全国でも珍しい飛び地合併による「中泊町」誕生に大きく尽力されたことなどから授与されました。

報告の際、授賞式でとても緊張したことや町長は「野上さんは町の誇りである」と話していました。

野上さんは、「かわいがってくれた地元へ恩返しするために議員として尽くしたいという思いから、34年間(9期)議員として働いたがあっという間だった。地元の皆様に感謝。」と述べました。



宮越家の歴史と宮越家の文化遺産のつながりを読み解く

中泊町博物館で秋の企画展が行われていました

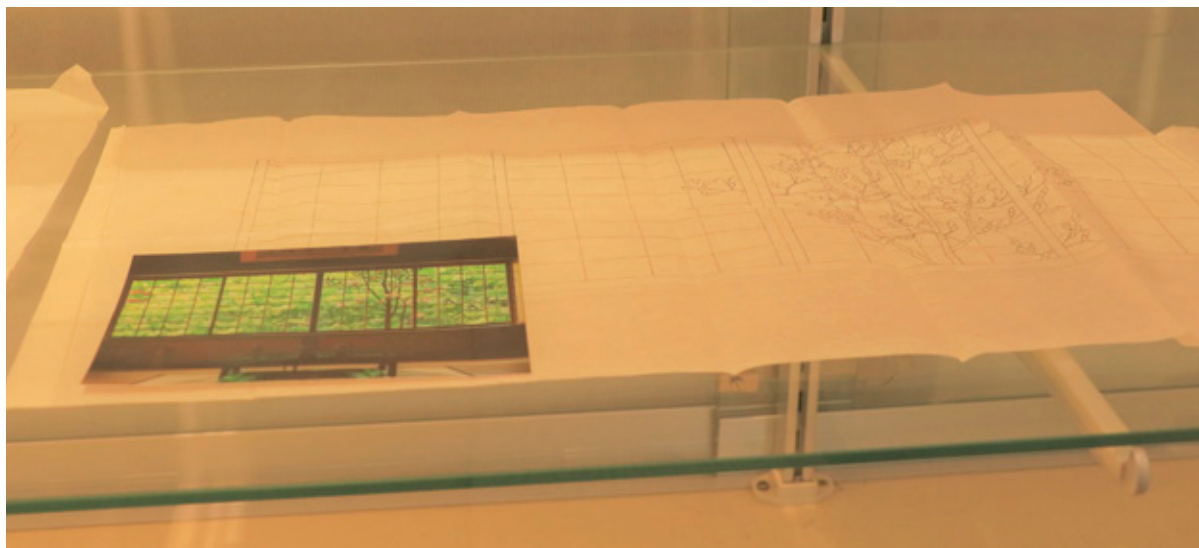
中泊町博物館で秋の企画展「一漢詩で読み解く一宮越家の文化遺産とは？」が10月4日(金)から12月22日(日)まで行われていました。

9代目当主の宮越正治は、工芸品集めが趣味で毎回東京藝術倶楽部から目録が届くようにしていました。妻の宮越イハが33歳の厄年の厄払いと誕生日プレゼントとして離れ「詩夢庵」を贈りました。そこにあるステンドグラスは工芸家の小川三知によって作られた作品であり、今回の企画展には小川三知からの手紙やステンドグラスの図案が展示されていました。

ほかには印、陶器、絵画など宮越正治が集めたであろう作品などが数多く展示されていました。

町博物館齋藤館長によると、小川三知にステンドグラスの制作を依頼したきっかけは2つの説があり、1つ目は東京藝術大学に通っていた宮越正治が友人の紹介で小川三知と出会ったという説、2つ目は宮越正治が泊まった高級旅館にあった小川三知の作品に惹かれて依頼したという説です。

来年の春公開は、5月23日(金)から6月29日(日)の予定です。ぜひ見に来てみてください。



近所のみんなで使い方を学ぶ

町内会スマホ教室を開催

町では、スマートフォンの操作を学ぶスマホ教室を近くの集会所や公民館などで開催する事業を行っています。11月22日(金)は下高根公民館で、11月29日(金)は長寿荘(長泥)でスマホ教室を開催し、両日併せて12人が参加しました。

携帯ショップからきた講師のもと、メールやLINEといったコミュニケーションツールの操作方法を学んだり、ハザードマップやスマホを使ううえでの注意点などの説明を受けました。また、普段スマートフォンを使用しているときの困りごとなども相談していました。

参加した人たちは「聞きたいことを聞けたのでよかった」「今日覚えたことを早く試してみたい」と話していました。



町民の冬場の安全を守るために

除排雪業務安全祈願祭が行われる



町建設業協会(会長・平山久宗)が12月3日(火)に大沢内克雪センターで、除排雪作業の安全祈願祭を行いました。

祈願祭には町長や、受注者である同協会関係者など約30人が参加し、除排雪作業の安全を祈りました。

町長は「町民の冬場の安心安全を守るためにがんばってほしい」と話しました。

進路の選択肢を広げる

木造高校から町の広報ヘインターンシップ

木造高校1年生の佐々木実桜さんが12月3日(火)、4日(水)の2日間、インターンシップに訪れ、広報紙の編集と取材にチャレンジしました。

実際に取材や写真撮影を体験してみて「記事を作るのは難しかったが、その分楽しかった。今回の経験で進路の選択肢が広がった」と話していました。

9ページ目の町の話題の記事は佐々木さんが取材・撮影・編集したものです。

